

青森県中小企業家同友会

DOYU

あおもり

2020 Mar

3

vol.227



- 01 新春例会実行委員長あいさつ
- 01 新春講演会
- 03 会員企業紹介
- 07 全研 in 京都参加報告

Photo by 新春講演会

2020年新春例会 in 青森

2月7日、ホテル青森で行われた2020年の幕開けを飾る新春例会(新春講演会&新年交礼会)に、お忙しい中たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。初めて実行委員長という大役を仰せつかり、一人でも多くの方に参加いただけるよう、お声がけさせていただきました。ゲストさんも多数参加いただきましたので、同友会を知っていただく良い機会となったと思います。

御路からお越しいただいた北泉開発(株)の曾我部元親様のお話から多くさんの学びを得られたと思います。実行委員長として、昼食を一緒にした際にこぼれ話なども聞くことができました。お話の中で印象に残っているのが「地域への貢献ができない(考えない)企業には存在する意義(価値)はない」ということです。社会の中で企業を公器として考えるべき原動力だと思います。

会場に依頼してエゾシカ肉の料理も用意することができました。柔らかくてクセがなく美味しいお肉でしたし、何よりヘルシーということですので女性や高齢者にはうってつけです。

残念ながら参加がかなわなかった方にも是非、当日の雰囲気をお伝えいただければ幸いです。最後に実行委員、事務局の皆さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。



実行委員長 櫻庭 敬子 氏
(株)太陽不動産 代表取締役

新春講演会



北泉開発(株)
代表取締役 曾我部 元親 氏
(一社)北海道中小企業家同友会
くしろ支部幹事長

「時をかけるジビエ」30年先を見据えたエゾシカ養殖事業」という題名ですが、30年という言葉が重要なキーワードになります。釧路市にマリモで有名な阿寒湖という湖があります。そこではたくさんエゾシカが集まってきて木の皮を食べるといふ食害が出ていました。ハンターに依頼してエゾシカの駆除を行っていましたが、処分は非常に困っていました。

エゾシカに関わるきっかけは、1冊の本と1人のシェフでした。当時、地域振興として「何とか付加価値をつけられないだろうか」といろんな人に話していた時に、ある人から島村菜津さんの「スローフードな人生」という本を勧められました。その本には、そこでしか食べられないものの、伝統料理、それを守る職人のことが

書かれていて、その内容に感動しました。そして地元食材で何かできないかと料理人を探していた時に、地元の食材でフレンチを出すシェフがいると聞き、ANAクラウンホテルの松金シェフにご当地ハンパガールを作ってもらえないか頼みに行きました。快く引き受けて頂き「食材は僕が決めて良いですか?」「エゾシカにしましょう。フレンチでは鹿は高級食材ですよ。」と言われたときに、鹿を駆除していることを思い出しました。鹿は毎年1500頭ぐらい処分されていて、処理に莫大なお金をかけていたので「それなら無料です」と思い、ビジネスになると考えました。

ANAホテルでエゾシカハンパガールを限定50個で販売することになりました。不安もありましたがあつという間に完売し大反響でした。この反響ならシェフ協力のもと、継続的にホテルで提供できるようにしようとしたのですが、ネットで動物愛護的な考え方の人から多くの批判を受け、断念せざるを得なくなりました。

エゾシカハンパガールのレシピは頂



〒036-0114 青森県平川市町居南田170-6
TEL 0172-44-2160 FAX 0172-44-2306
<http://www.jinpachi.co.jp/>



いたもののこのお店へ行っても、エゾシカと聞いただけで門前払いされました。知り合いへ頼み込み、お盆の5日間だけという事で、道の駅やホテルで実験販売できることになりました。そこでも反響が良く期間終了後もどんどんお客さんが来る状態でした。

そうすると、話題性が出てきて周りの人が興味を持つようになっていきました。一番早く動き出したのが地域でした。「エゾシカで町おこし」と考え、支援の輪が広がっていきました。そして、いろんな業界が集まり「阿寒町エゾシカ研究会」が立ち上がり、周りからの推薦で会長を任命されました。

そしてスタートしたのでありますが課題が出てきました。まずは原料の確保です。簡単に手に入ると思っていたのですが、ハンターは駆除を目的としているため、「食」としては使うことができない

い状態でした。そこで、狩猟技術や捕獲、運搬技術などの基準を設け、冬期間1〜3月に開いたワナなどで生体捕獲したエゾシカを12月まで短期間牧場で飼育する一時養鹿を行える仕組みを作りました。

次に処理技術の問題です。畜産はたくさんの方で守られているのに対して、野生獣は食品衛生法だけでなく、と畜場法が適用されないため、自信をもって安全と言えないため、エゾシカ協会とエゾシカ組合、北海道が協力して「エゾシカ衛生処理マニュアル」を作成しました。

そして衛生レベルが高いという事で学校給食に採用され、平成18年から毎年使ってもらえるようになりました。釧路市は小中学生合わせると1万3千人くらいですが、1万人を超える給食に使っていることで評価を頂いています。

当初このエゾシカの事業がダメになったときに「だれが責任を取るのか」と考えたときにも「すごく不安になりました。事業計画を作りコンサルタントに見せましたが前例が無く、「アドバイスができない」と言われていた時に、地域経済センター長

に就任された小磯修二氏の記事を見つけ、地域経済学スペシャリストのこの方に見てもらおうと思いアポを取りました。

「君の事業計画を見せてもらいました。正しいと思います。ただし、一番大事なものが入っていない。時間軸がない。悪いことは言わないから5年や10年でやろうとするならおやめなさい。ただし30年かかってよいならこの通りやりなさい。」と言われました。時間がかかってでもできるとわかったときに嬉しかったです。ただ、30年かかる事業計画の販売戦略の最終章は大手流通との取引ですが、すでに10年足らずでお付き合いできるようなになりました。事業計画のスピードが速すぎても急に不安になりました。そんな時に同友会の仲間であるラッキービエロの王一郎社長が同友会釧路支部の新年交礼会でお会いした時に「食に対する価値観は、戦後どんどん変わっていて、戦後直後はおな



かっぱいを求める「胃」の時代、次はおいしいを求める「舌」の時代、そして産地や身体のことを考える「頭」の時代、現在はこれを食することによって、地域は「社会」を考える「心」の時代になっている」というお話を聞き、鹿を食べることによって農林被害や交通事故を防げるから、たまたま時代に合ったのだと腑に落ちました。

まとめとして、エゾシカはなぜ普及できた理由としては、一つは社会問題であったゆえに地域が一体となって取り組みができた事、時代の変化にたまたま合っていたという事、時間軸を長く持っていた事だと思います。北海道同友会のくしろ支部は現在726名ですが、どんどん増やそうと思っただけで頑張っています。新しく入った人には、時間軸の重要性を伝えていきます。勉強し合いながらそこでできた友情、そこでできた信頼関係を土台にして会社を伸ばしてほしいです。同友会活動も時間軸を長く持つて頑張してほしいと思います。

記：上久保聖一



産業廃棄物収集運搬・処分業
建築・土木・管工事業

青森県上北郡東北町字柳沢59番地21

東管工業株式会社

代表取締役 鮎沢 宮 行

TEL 0175-63-4450
FAX 0175-63-4467



(有)ダイヤモンドケンネル
代表取締役社長 横山 祥子 氏
青森市金沢4丁目4-6
TEL: 017-752-9605
<http://www.dkennel.co.jp/index.html>

「ダイヤモンドケンネル」それは創業者から今の社長、横山祥子さんに受け継がれたダイヤモンドの原石だったんだろう。

私にとって女性経営者の話を聞くことができる今回の取材は特別なものと感じていましたがそれは、まだ私自身が女性というものにこだわっていたからなのだと祥子さんの話を聞いて思い知りました。

今回は横山社長ではなく社内でファーストネームで呼び合っているという同社の社風を真似て祥子さんと呼ばせていただきたいと思っています。

ダイヤモンドケンネルの前身は旅館業やクリーニング店などを経て横山鳥獣店からスタートします。犬や猫をペットとして、お金

を出して買う時代へ変わるという先を讀む力、兄弟の中で女性である祥子さんに社長を任せるといふ先見の明は、沢山の人のふれあつて培われた創業者の人間力なんだと感じました。

現在、同社は「ペットを売らないペットショップ」というキャッチフレーズを掲げています。では何を売るのか？それはワンちゃんや猫が天命をまっとうするまで幸せに暮らせる愛です。祥子さんのペットショップへの想いをうかがっているとペットではなく、家族のことを話しているように感じます。健康を気遣い、ストレスをためないように病気にいち早く気づいてあげられるような、そこには従来のペットショップではなく家族がお世話になる空間がありました。

そんなダイヤモンドケンネルですが、ここに至るまでは様々なことがあつたそうです。祥子さんが入社した時はペットブー

ムがあり、どんどんペットが売れた時代です。その頃はペットを売らなかつた。フリーダー業もして業績をどんどん上げたそうです。しかしバブルの崩壊とともに業績は下がり始め結果が出にくくなりました。そんな時に事業承継をし、社長になった祥子さんは同友会に人合して経営指針を作りました。そこでの出会いや、お客さんのことを真剣に考えた結果、元々ペットをモノとしてみることをできない祥子さんはペットを売ることを見直し、やめました。そうです、ペットを売らないペットショップの誕生です。しかし現実にはペットを売つ



て利益を出していたので最初はなかなか難しかったそうです。しかし指針を受け自分のすべきことを理解し、理念をしっかりと持ち、軸がぶれずにやってきた結果が今のダイヤモンドケンネルを創り上げているのだと思いました。

今でも新しいことに挑戦し、プラスワンライフ！ところが通じ合うワンランク上のドッグライフステーションというドッグキャンパスやドッグフットネス、リハビリ、老犬介護サービス、ペットセレモニーなどペットのトータルケアについて様々な取り組みをしています。

社内でも社員同士が共有できるような取り組みも様々しています。しかし私が今回取材をして、皆様にお伝えしたいのは、様々な取り組みではなく取り組んでいる想いです。従業員やワンちゃんを家族のように思い、その家族が幸せになることを願いながら仕事をする祥子さんの眼はダイヤモンドのように輝いていました。



記・奥内 史芳

Oct, 有限会社 オクト

青森県知事許可(般-24)第100121号
〒030-0852 青森市大字大野字鳴滝87-14
TEL:017-762-5223 FAX:017-762-5224

◆事業内容◆

- 内装仕上工事(軽鉄・ボード・床・クロス)
- タイル・石工事
- ビル・住宅リフォーム工事



株式会社 0172

代表取締役 井上 信平 氏

平川市八幡崎松枝 42-1

TEL: 0172-57-4783

https://0172.jp/

職し、結婚し、子どもにも恵まれますが、青森に住みたいう夢をかなえたいという一念で

一念発

代表の井上信平氏はもともと兵庫県生まれで、津軽との出会いは高校卒業後アメリカに留学した際、たまたまインターネットで調べてみつけた青森ねぶた祭りの写真でした。「こんなカラフルで独特な色合いが生まれる場所には、いったいどんな文化があるんだろ



う。」と青森にあらがれを持つことに。井上氏。その後、兵庫の地元企業に就

起し、20代後半に家族で青森に移住することを決意します。そして、弘前市にやってきた時に井上氏の人生に影響を及ぼす出会いがありました。「道の駅の駐車場に車を止めてふと視線を上げると大きな岩木山があり、「ようこそ」と言われた気がしたんです。その瞬間、自分はずっとこの山に会いたかったんだと確信しました。」と井上氏。

青森に移住し、8年後の2010年株式会社0172を創業します。創業当初の業務内容はチラシ、ポスター、ホームページ制作など広告デザイン業を営んでおりました。創業してある日、井上氏は岩



木山の絵を描き始めます。時に激しいエネルギーを感じさせる原色で、時に優しい淡い色調で、詩文の中の岩木山を無心に描き、やがて岩木山だけを描く画家としても知られるようになります。そして、5年後の2015年に「カフェデュボワ」をオープンします。長年広告デザインの仕事に携わる中、自分が店を経営すれば、より依頼者の気持ちに寄り添えることが出来るという想いでオープンしました。

現在は、ヒト、マチ、ジンセイに驚きのタネをまこうという経営哲学のもと、ブランディング事業、そして弘前市役所隣と平川市八幡崎地区にハンバーガー専門店「デュボワ」

を2店舗運営しています。

そして、井上氏には様々な事業を運営するうえで一つの大きなテーマがあります。それは、「青森の発展に寄与する」ことです。青森県産食材を使うこともその一つですが、「デュボワ」では働き口が見つけない子育て中の母親を積極的に採用しています。子持ちスタッフが多くのことを考慮して夜営業は予約のみ受け付けるなど、働きやすい環境を整えています。また、ブランディング事業部では、若手のクリエイターの受け皿になっています。井上氏は「働く場所があれば他県への人口流出も防げますし、県外からの移住者を助けることが出来る。経営規模を大きくしていくことが、自分が出来る地域貢献だと思っています。」と想いを語っていました。



記：加藤 人士

有限会社 工藤板金工業

〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼 22-17
TEL 0178-29-1855 FAX 0178-29-1833
http://www.kudou-bankin.co.jp/

屋根

外壁

板金

リフォーム



(有) さいとう紙器 八戸支店
齋藤 聖伍 氏
八戸市下長 8丁目 2-20
TEL: 0178-20-1203

「どんなお仕事ですか?」

紙箱の製造業をしています。和洋のお菓子や海産珍味、木工品や陶芸品のための紙箱を卸しています。本社は五所川原市でそこでは父と母が二人で仕事をし、八戸の支店では祖母と5人の社員と一緒に仕事をしています。

五所川原の会社は昭和37年に祖父が設立しました。平成元年に縁があつて八戸支店を開設するタイミングで父(現社長)に代表を譲り、祖父母が八戸に移り住み営業を開始しました。

「入社のかきつけは?」

自分は妹と2人兄弟で長男として跡を継がなくちゃと思つていました。父からは「何をやるのもいいよ」と言われていたのですが、

仙台の学校を出た後も他の仕事をするイメージがわからなくて、そのまま父の会社に入社しました。

平成23年祖父が亡くなったのをきっかけに、祖母を助けるために自分も八戸へ移り住み現在に至ります。

「将来的には会社の代表になると思うのですが、どんな会社になりたいですか?」

五所川原の会社と八戸の会社ではそれぞれ得意分野も取引先も違います。いずれは統合を視野に入れないといけないと思つています。ただそれ

は自分一人で決められることでもなく、社長や祖母の考えも聞かないといけないですね。それは先の話として、今は自社の持つ技術の継承をどうするかを考えていかなければと思つています。

「夢はありますか?」

紙箱っていうのは消費者にとってメインの商品ではなく、お菓子やその他のメインの商品に付いてくるサービス

品のイメージなんです。それが、中身(メイン商品)が売れるために必要なものだということを理解はしてるのですが、もつと紙箱のイメージアップを図れたらと思つています。その上で八戸の人達に自社を認知してもらえようになりたいです。

「同友会へ希望することはありますか?」

現在、八戸支部青年部と小グループでは食委員会に入っています。過去にやった会員企業への見学会は色んな刺激や発見があつて面白かつたのもっとやって欲しいと思つています。通常の例会では、いつも同じような報告ばかりなので、種類を多彩にすると専門的な勉強会をして欲しいです。

記: 高橋利典



有限会社 ローズリー資源 <http://www.rozure.com/>
廃棄物業・総合リサイクル業

本社 〒030-0955 東京都青森市大字駒込字深沢1-303
TEL 017-744-0575 FAX 017-744-0579

南部支店 〒039-4521 青森県三戸郡五戸町大字奥間内字地蔵平1-578
TEL 0178-38-9294 FAX 0178-38-9295

鈴木建設工業株式会社
SUZUKI KENSETSU CO., LTD.

〒033-0062 三沢市新町三丁目 31 番地 2201
TEL 0176-53-3078 FAX 0176-53-9800 suzukikansetsu.co.jp



和み家
代表 黒沢 若菜 氏
十和田市相生町 18-4
TEL: 0176-27-1753

の社員さんが退社しました。すると今まで常連だったお客様が来なくなり、売上も減少してしまいました。そこ

現在、経営指針書を基に今まで考えたことが無かった、短期、中期、長期での目標を定め社員と共に取り組んでいきます。指針書を活用した経営を始めて、社員さんとの関わりで変化することは、今まで、社員とのミーティングは私目線の思い込みや独断で物事を決めていたが、経営課題や今後をもっと良くしていくには？などを社員さんに相談したところ、少しずつ意見がでてくるようになって、それからミーティングの

雰囲気も変化し言いたいことが言える場になり、社員さんも笑顔が増えました。お客様に対しては、社員さんに「とにかく良い技術を練習して、良い腕前に」と育成していましたが、お客様の魅力を引き出し、いつまでも「若く美しく自信をもってもらう」為には、社員さん自身のセンスを磨くことも必要だと考え、技術+自分自身のセンスを磨く研修も取入れ、まず社員さんが自信をもって働ける環境づくりに取り組んでいます。

これからの展望は、原点である女性が自立できる環境をつくり、和み家にいる社員さんやお客様の魅力を引き出し、みんなが輝く社会を目指します。それが和み家の「女性のための女性によるエステティックサロン」の意味です。



記：大和 英樹

和み家は「女性のための女性によるエステティックサロン」です。この事業を始めたきっかけは、私が美容師として働いている時に、業種的に時間の拘束があり結婚や子育てをしながら仕事を続けることが難しく、離職していく人が多いという現状から、美容師の資格を活かして女性が働きやすい環境を作りたいと思い2015年2月に創業しました。

創業時は、地域では珍しいお顔そりが出来るエステという事や、地域の皆さんの協力もあり、沢山のお客様に来ていただきました。そしてさらに、試行錯誤でいろいろな事を試した結果、徐々に常連客が増え売上も順調だなど感じていた時に1人



KID 有限会社 カワシタ電業

電気工事 消防施設の設計、施工

むつ市中央2丁目21-1
TEL.0175-29-5611

弘前市旭町からの眺め「アゲハチョウの夜」

AOSETU
水の問題、迅速解決!!
もう、水まわりの心配はさせません。
017-766-2421

全研 in 京都参加報告

中小企業問題全国研究集会に参加して
(有)ロースリー資源 代表取締役 田中 桂子

全国行事に参加できることは、楽しんで参加しようという心がけています。今回は、京都同友会の「ソーシャルインクルージョン委員会」の分科会に参加しました。京都同友会は2020年8月で50周年を迎え、独自で28年間児童養護施設との関わりを深めています。健常者の人々と問いかけて手を挙げる人はいないはず。みんな何かしら抱えているはず。『障がい者』とひとくくりにしてしまいがちですが、滋賀での障がいの30大雇用の資料からもそれが見えます。障がい者手帳のある方、ない方、就職困難な方等。京都ではソーシャルインクルージョンは社会的に弱い立場にある人々を排除・孤立させるのではなく、共に

支え合い生活していくという考えの下、委員会の中に「障がい者就労部会・社会的養護部会・求職困難者就労部会」と3つの部会を構成しています。分科会報告者の「どんな仕事をしたいかではなく、どんな社長のもとで働くか。朝が苦手な方に毎日朝連絡をして生活の環境を整えるのもしかり、人としてどう成長できるかを考えていかなければならない」という言葉。また、ダウン症の子供を持つ会員の「以前はこの子を残して死ねないと思っていたが、今は、この子の為に先に死ねる世の中になるように、仕組みも含め考えることが出来、未来に向けた構想もある」という話が印象深いです。



小さな成功体験を積み重ねることの大切さは、私たちでも同じです。障がい者雇用はちよつと...と考えている方に知っていたいただきたいことがあります。2030年に向けて国連が定めた「SDGs（持続可能な開発目標）」には「誰一人取り残さない」とあります。中小企業だから出来るのが沢山あります。共に生きる事が当たり前になる世の中になるように、幸せが見える会社になれるようこれからも、同友会運動を通して、学んで実践していきたいです。

●モニュメント
●デザイン
●ネオン
●サイン

ART DESIGN

株式会社 **エアサイン**

Call 0172-62-5508 Fax 62-5516
Office 〒038-1331 青森市浪岡女医沢西花岡82-1
URL: <http://www.ai-sign.com> MAIL: ai-sign@infoaamori.jp

マドショップの魅力をよく知りたい

MADO ショップ 八戸青葉店

MADO ショップは、明後日できる
型リフォームのお店です。

株式会社 建久屋

〒031-0804 青森県八戸市青葉三丁目32-17
TEL 0178-43-1182 FAX 0178-43-1104

お試し入店スマホアプリ

Burarin

株式会社サン・コンピュータ

青森県八戸市青葉三丁目32-17
TEL 0178-21-1255

まずは
ホームページを
チェック!

QRコード

もっと素敵に環境創造

総合建設業
株式会社 **大坂組**

〒030-0933
青森市大字諏訪沢字岩田51-1
電話 (017) 726-2461
FAX (017) 726-7009
運輸部 (017) 726-7007

青森県中小企業家同友会

第23回定時総会

《記念講演》

「克ち進む経営で難局を乗り越える」

エイベックス株式会社

かとうあきひこ

代表取締役会長

加藤 明彦 氏

(愛知中小企業家同友会 会長)



「食欲に学び、学んだことを素直に自社で実践することで、経済環境や競合他社といった外的要因に左右されない『克ち進む経営』が確立される——」。先行きの不透明感が増す中で、自社の進路をどのように定め、社員とともに荒波を乗り越えていくのか。数々の困難に直面し、その度に同友会での学びから打開策を見出してきた加藤氏の情熱あふれる講演です。

ぜひご参加ください！

【講師略歴】

1947年名古屋生まれ。1969年、大学卒業と同時に前身の加藤精技(有)入社。1984年に代表取締役社長就任。2010年より代表取締役会長となり、現在に至る。2017年「旭日単光章(産業顕彰功労)」を受章。

【企業概要】

1949年創業。自動車関連、建設機械、ミシンの部品製造を手がける。資本金1千万円。社員数399名。年商70億円。経済産業省「はばたく中小企業・小規模事業者300社(2016)」受賞。

日時

4月17日(金)

総会 午後2時30分～ ダイヤモンド(4F)

講演 午後3時25分～ ダイヤモンド(4F)

懇親会 午後6時40分～ サファイア(地階)

会場

アラスカ ダイヤモンド(4F)

(青森市前町1-11-22 TEL017-723-2233)

参加費

6,000円 (懇親会費含む)

※講演会までは2,000円

※総会のための参加は無料

第23回定時総会参加申込書(委任状)

青森県中小企業家同友会【送り先】FAX017-752-0170

※お手数ですが、出欠に関わらず4/10(金)締切までに、こちらの用紙を事務局へご返信下さい。

会社名	
お役職	
お名前	
出欠 お返事	●参加します(○印をお願いします) 総会 / 講演 / 懇親会 ●委任して欠席します

〈開催日時〉2020年4月17日(金)14時30分～

〈会場〉アラスカ

〈参加費〉6,000円(懇親会費含む。講演会までは2千円、総会のための参加は無料)

〈記念講演〉

「克ち進む経営で難局を乗り越える」

エイベックス(株)代表取締役会長 加藤 明彦 氏

今からご予約ください！

Welcome to DOYU!

新会員紹介

株式会社 吉田産業 青森支店 【青森支部】



支店長 中村 好昭

社は自社の専門商社として、青森・東北の発展に貢献
してまいります。

〒030-0131 青森市岡屋町2丁目19番14号
TEL:017-728-2111 FAX:017-738-8110
<http://www.yoshidasangyo.co.jp/>

日本キャタピラー(同) 青森営業所 【青森支部】



所長 阿部 徹弥

キャタピラー・ジャパン製の建設機械販売、車体整備・
修理、部品販売、レンタルなど

〒030-0142 青森市大字野木字野沢37-31
TEL:017-739-4141 FAX:017-739-7104
<https://www.nipponcat.co.jp/>

ほっこりごはん屋 輔-tasuku- 【青森支部】



代表 齊藤 大輔

松原あときい駅前郵便局内にある定食屋です。
ランチ11:00～14:30、ディナー17:00～21:30、
火曜定休。イチョイシはチキン南蛮です。

〒030-0813 青森市松原3丁目9-2
TEL:017-718-2929

ニッコーテクノ 株式会社 【八戸支部】



主任 大西 泰彦

原車販売にこだわり、現場から加工。販売まで一貫し
て、信頼をもった皆さんと取り組んでいます。

〒031-0822 八戸市白銀町字佐部長根24-37
TEL:0178-38-9967 FAX:0178-38-9968

随時 会員募集中!

*** 編集後記 ***

今年の1月に広報委員向けの取材力や文章力向上を目的と
した勉強会を(有)グラフ青森の下池社長を講師に迎え実施
しました。改めて取材で相手の想いを聴く、記事で想いを伝え
るという部分は、経営者が社員との関わりでやるべき事と共通
しているなと再認識しました。



私たちはエネルギーを追求し、くらしのゆとりを育てる企業を目指します。
ササキ石油販売株式会社

本社:十和田市大字奥瀬字小沢口425-3
☎0176-72-2026 sasaki-gs.com

十和田湖町CS(0176-72-2026) A.M.ICS(0176-25-2311)
車検・東北運輸局認証自動車整備工場・LPガス・灯油・重油
各種住宅設備機器・水道設備工事・太陽光発電システム